

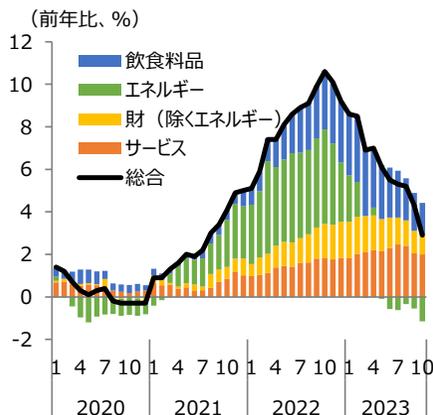
欧州

消費者物価（2023年10月）

伸びは3%を下回ったが、基調的な物価上昇圧力は依然強い

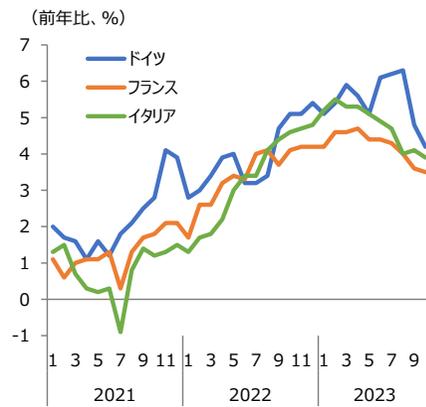
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 消費者物価（コア物価、主要国）



出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 23年10月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+2.9%と前月の同+4.3%から伸びが大きく鈍化した（図表1）。物価上昇率が3%を下回るのは21年7月以来。
- 物価鈍化の主因は、前年のエネルギー価格高騰の反動であり、一時的な要因が強い。ECBが重視する指標の1つであるコア物価は同+4.2%と依然高止まりしている。コア物価を構成する財（除くエネルギー）価格の伸びは鈍化しているが、賃金上昇からサービス価格の鈍化ペースは緩やかなものにとどまっている。
- 主要国では、前年のエネルギー価格高騰の反動が大きい、ドイツ（9月前年同月比+4.3%→10月同3.0%）、イタリア（9月同+5.6%→10月同+1.9%）で伸びが大きく鈍化した。ただし、各国のコア物価は4%前後と、高止まりしている（図表2）。

3 賃金（ユーロ圏）



注：四半期。直近は23年4-6月期。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

4 エネルギー・コア物価（ユーロ圏）



注：季節調整値。前月比の後方3か月移動平均。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価は、前年の反動で伸びが大きく鈍化した。基調的な物価上昇圧力は依然として強い。
- 先行きも、高めの賃金上昇から基調的な物価上昇圧力の高止まりが続くとみる。ユーロ圏経済が停滞するなか、雇用環境は依然として堅調を維持しており、人手不足が続いている。物価高に対応するための高めの賃金引き上げ要求も続いており、賃金が上昇しやすい環境にある。23年以降も4%超の賃金上昇が続いている（図表3）。サービス価格を中心に物価上昇圧力の緩和には時間を要するだろう。
- 先行きのリスクは、エネルギー価格の上昇だ。中東情勢の悪化などを受け原油や天然ガス先物価格は上昇している。前年比でエネルギー価格は大きく低下しているが、前月比では上昇傾向にある（図表4）。エネルギー価格の上昇により、期待インフレの上振れや、企業の価格転嫁姿勢が再び強まれば、高インフレが再燃するだろう。